

吉田英嗣『日本列島における火山体の巨大崩壊の発生方位には規則性を認めうるか』 pp. 151-190, において以下のとおり誤りが判明しました。ここに訂正し、深くお詫び申し上げます。

正誤表

本文 161 ページ

誤 「3. …面的なラスターデータの作成をおこなった。すなわち, Triangulated Irregular Network (TIN)を作成した。4. 作成された TIN を用いて, 反復的に, 「等高線」を生成した。ここでは, 便宜的にダミー高度にして「25m 毎」の…。各事例に対して与えられる  $\sigma_{\text{thick}}$  の向きは, 近傍の「等高線」が伸びる方向に定めた。」

正 「3. …面的なラスターデータの作成をおこなった。(Minimum Curvature 法による)。4. 作成されたラスターデータを用いて, 「等高線」を生成した。ここでは, 便宜的にダミー高度にして「30m 毎」の…。各事例に対して与えられる  $\sigma_{\text{thick}}$  の向きは, 近傍の「等高線」が伸びる方向も考慮されて定められた。」

誤 「同様に, 各事例に対して与えられる  $\sigma_{\text{thick}}$  の向きは, 近傍の「等高線」が伸びる方向に定めた。」

正 「同様に, 各事例に対して与えられる  $\sigma_{\text{thick}}$  の向きは, 近傍の線が伸びる方向により定められた。」

本文 162 ページ

誤 「…の付近は  $128^\circ$  (同  $308^\circ$ ) となった。」

正 「…の付近は  $128^\circ$  (同  $308^\circ$ ) となった。これらには数<sup>°</sup>の誤差が見込まれる。」

誤 「…大きく異なるものとなった。」

正 「…大きく異なるものとなった。なお, 択捉島の諸事例などを除く各事例の  $\sigma_{\text{thick}}$  の向きのデータは, 図 7 に示す地形陰影図の地図投影法にあわせるかたちで取得された。」

表 1

誤 「表 1 データの一覧」

正 「表 1 データの一覧 (小数点以下は四捨五入)」

表 1 中の No. 11, 24, 29, 42, 60, 63 の正しいデータ (下線部が訂正部分), および図 11 と図 12 の正本は次のとおり。

No.	Name	(A) collapse direction	(B) $\sigma_{\text{max}}$ based on Matsuda et al. (1978)		(C) $\sigma_{\text{max}}$ based on Takeuchi (1989) and Seno (1995)		(D) Diff. with (A) ( $\theta < 90$ )
		degrees from north (NESW)	$\sigma_{\text{max}}$ direction (from cont to ocean)	Diff. with (A) ( $\theta < 90$ )	$\sigma_{\text{max}}$ direction (from cont to ocean)	Diff. with (A) ( $\theta < 90$ )	
11	Eniwa	<u>67</u>			<u>135</u>	<u>68</u>	<u>68</u>
24	Izuna_Koshimizu	<u>335</u>	104	51			51
29	Kaimondake	<u>233</u>	109	56			56
42	Madarao	290	<u>104</u>	<u>6</u>			<u>6</u>
60	Oshima-Oshima				<u>84</u>	<u>82</u>	<u>82</u>
63	Shiretoko-Chinishidake	105			<u>121</u>	<u>16</u>	<u>16</u>

図 11

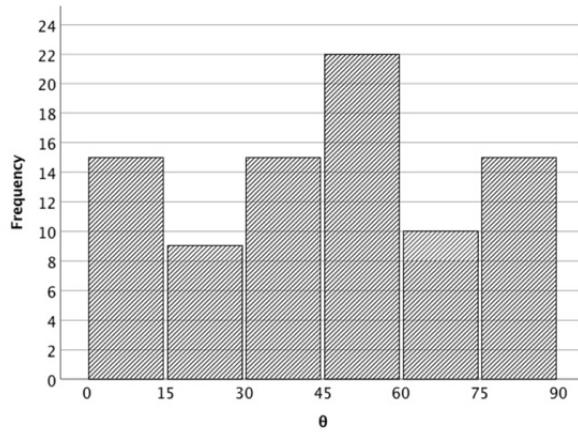
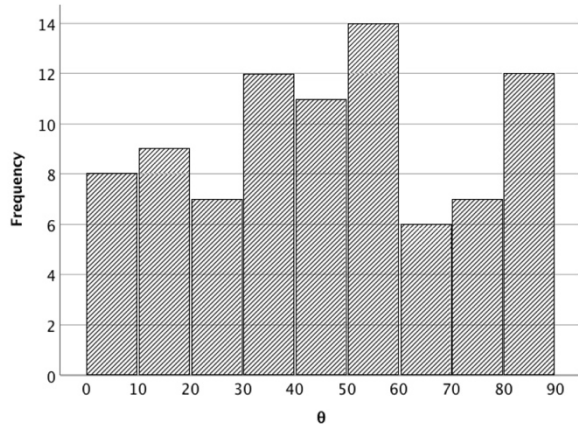


図 12



以上。